



TITLE:

獨逸の地理學界(五)

AUTHOR(S):

寺田, 貞次

CITATION:

寺田, 貞次. 獨逸の地理學界(五). 地球 1929, 11(3): 215-221

ISSUE DATE:

1929-03-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/183571>

RIGHT:

換算ノルム		wt. %	
正長石	7.79	SiO ₂	43.41
曹長石	12.58	TiO ₂	2.58
霞石	12.78	Al ₂ O ₃	15.52
灰長石	19.18	Fe ₂ O ₃	3.99
透輝石	21.63	FeO	8.15
橄欖石	12.04	MgO	6.78
磁鐵礦	5.08	CaO	10.77
チタン鐵礦	4.86	Na ₂ O	4.28
燐灰石	3.02	K ₂ O	1.30
黃鐵礦	0.06	H ₂ O	0.46
水	0.46	P ₂ O ₅	1.29
計		MnO	1.38
		S	0.03
Class		Cl	Tr
		Cr ₂ O ₃	nil
Order		BaO	Tr
			99.94
Rang		loss O for S 0.01	
Subrang			
		99.93	

本岩の化學性質に於て、珪酸の量乏しきに伴らずアルカリの量特に多きは注意を惹く點であつて、チタニウムの量に富めることもその特性の一つである。

本岩はその性質が特異なもので本邦の玄武岩類と趣を異にしホルムス(A. Holmes)が研究したジャン・マイアン(Jan Mayen)の橄欖石玄武岩と類似するものであるが何れ改めて細叙する積りである。

獨逸の地理學界 (五)

寺田貞次

柏林大學、つづき

歴史地理の研究は當大學許でなく、獨逸では

一般に振はない、ライプチヒ大學の如き、立派な歴史地理の研究室迄備えて居りながら、全く

等閑に付せられて居るのを思へば、例へ聽講の學生は少く、學科としては振はないにせよ、二名の教授迄もおいて研究に従事して居る點はたのもしく感ぜられた。

柏林大學に於ける地理は、最初は此の研究室のみであつたのでせうが、夫の新科學的地理並に獨逸に於ける地形學の建設者と稱せらるゝリヒトホーフエン Fardinand von Richthofen が、

ボン・ライプチヒ大學から轉じて、一八八六年當大學に來られて以來、其の努力で本館の傍に海洋學博物館 Meereskunde Museum が出來、其の樓上が地理のインスチテュートに充てられることになつたのであります、現今の地理學教室は即ち是で、前述の歴史地理とは全然關係なく、獨立した地理學部として設置され、リヒトホーフエンの歿後はペンク教授 Albrecht Penck が一九〇六年以來ウイン大學から入りて、其の後を繼ぎ、新科學的地理の研究に従事せられ、現今に至つたものでありましたが、教授は本年を(二九)以て七十歳の老齡に達せらるので、職を辭され

ノルベルト・クレプス教授がフライブルグ大學から入りて學生を指導さるゝ事になつたのであります。

然しペンク教授は所謂若者を凌ぐの元氣さにて、此の春迄熱心學生の指導に従事せられ、其の後は大新大陸にて講義をせられ去月柏林で催されたペンク教授に對する祝賀會には歸國出席されたことゝ存じて居ます。

例により研究室を觀察しますに、前述の通りインスチテュートは海洋博物館の樓上で、三階が一帶之に充てられて居るのであります、立派ではありませぬけれども室は大小合はせて約二十を數へ、教室を初め教授室・標本室・閱覽室・植民地理研究室・地圖室・製圖室等に充てられて居る。

挿圖(第十一卷第二號第二十三圖參照) (1)より(10)迄は事務室並に教授室(11)と(12)とは圖書室(13)乃至(15)は地圖關係室(16)及(17)は標本室(18)は植民地理研究室(19)は寫真室(20)は講義室である。更に各室に付て

御紹介申せば。

(1)は當研究室の主任教授室で、自分の居た時はベンク教授の室となつて居ました、教授は入口の左手に机を置き、右側に應接用卓子を据ゑ、裝飾としては差したるものもなかつたが、壁には寫眞など二三掲げられ、ソファアの一つ位、置かれて居るに過ぎず、デレクター室としては寧質粗の感に打たれた。

(2)は海洋博物館主任室メルツ教授教Alfred Merzの室であつた、教授は一八八〇年生、ウインにて地理・自然科學並に史學を學び、重に海洋學の研究に従事し、一九〇四年より八年に亘りアドリア海を、一九一〇年及び一九二一年には北海を、一九一二年にはオストゼーを、一九〇八年より一三年に亘りアルプス諸湖を、一九一一年には大西洋を、一九一七年にはボスボラス並にダーダネルスを研究し、最初ライプチヒ大學でParsch教授の助手を勤め、後ウインに移り、一九一〇年來伯林大學に來られ海洋學研究室の主任として、海洋學を擔當されて居り、

丁度自分の伯林に在學中、研究室の諸氏と共にMeter 號に乗じ、大西洋探検 Deutschen Atlantischen Expedition の途につかれたのでありましたが、探検開始間もなく、病魔の犯す處となり一九二五年八月十六日より十七日に渡る夜にベノスアイレスに歿せられた、享年四十有五遺憾な次第であります、同年十一月七日には伯林で御葬儀が行はれ伯林地學協會では追悼祭を舉行した、當時ベンク教授の話されたメルツ教授の傳は載せて伯林地學協會雜誌第七卷にあります此の主任室には現今メラウ女史Lotte Möllerが居られ、其の後を受けて事務をとつて居る、女史はメルツ教授の高弟で、最近には

Methodisches zu den vertikalschnitten

Längs 35,4°S. und 30°W im Stansischen(1926)

を著し、先達の伯林地學協會百年祝賀會の特別出版物(Sonderband der Zeitschrift der Gesellschaft für Erdkunde zu Berlin Hunderthjahrfeier 1828-1928)にHydrographische Arbeiten am Sakrower See bei Potsdamを公にして居る。歐米

では婦人にしてこう云ふ特殊な研究家もあるもので、女史の如きも男子に劣らず、リュックサク姿で實地の調査を厭はず、却々熱心なものである。一昨年頃から海洋學を擔當する様になつて居る。

(3)は製本室で事務員一名之に従事し、兼ねて研究室萬端の世話をやいて居る、自分の居た時はシューマンと云ふ男が居た。却々親切な人で、自分が此研究室に初めて訪問した當初から在學中萬事面倒を見てくれた。

(4)は教授室で、自分の頃にはハンス・マイヤー Hans A.F. Meyer と云ふ少壯博士が居た、地圖學の専門と見え、其の教授は却々巧であつたが、一昨々年の夏來獨逸の南大西洋探檢に加つて南米に出張され、消息は柏林地學協會雜誌に發表されて居り、又

Die Oberflächen strömungen des Atlantischen

Ozeans im Februar (1923)

等の著がある、地圖學はライス博士が代て講せられて居た。

(5)は同教授室で、目下 Alfred Rühl 教授の室になつて居る、教授はケーニクスベルヒの人、一八八二年(十月)生、ライプチヒ並に柏林に學び、地理學を專攻し、一九〇六年にはルーマニアに一九〇七年より八年に亘りて西班牙に、一九一〇年には伊太利に一九一二年には北米合衆國を踏査し、

Beiträge zur Kenntnis der morphologische.

Wirksamkeit der Meeresströmungen (1906).

Geomorphologie, studien aus Catalonien (1909).

Die Nord-und Ostseehäfen im deut. Aussenhandel (1921).

Die Wirtschaftspsychol. des Spaniers (1921).

等を著はし、又北米の地形學者デービス教授 William Morris Davis の地形學を獨譯し、

Die Erklärende Beschreibung der

Landformen(Leipzig u Berlin, 1912).

と云ふ名で發表して居る、マールブルグから轉じて現今當大學教授となり。重に經濟地理方面を擔當して居る、然し父祖が文學者であつた關係上、文學趣味をも有せられる、極く溫厚な品

のよい風采で、エチンバラ大學から伯林大學に轉學の際チズム教授の紹介を受け、初めて御眼にかゝつたのが、此の教授であり、自分にとつては印象の深い教授である。

(6)も教授室で、イエーガー教授(Ernst Jaeger)が占めて居る、教授はオフエンバッツハの人、一八八一年(明治十四年)生、ハイデルベルヒ・チューニツヒ及伯林に學び、數學並に地理を研究し、一九〇四年及び一九〇六年七年には獨領東阿弗利加を、一九一四年より一九年に亘りては、西南阿弗利加を踏査し、最近では一昨々年(明治三十八年)はメキシコを踏査された、其の結果は

Über Oberflächengestaltung im Odenwald (1904)

Das Hochland der Riesenkrate und der umlieg

Hochländer von Dtsch-O. Afrika (Ergb. 4 u. 8.

Mitt. Deutsch. Schutz. geb.)

Beitrage zur Landeskunde von SW-Afrika.

などとして發表されて居る、髭の深い猿面の風采ではあるが極く素朴な方で、且極く元氣な方である、阿弗利加の研究家である爲め、植民

地理を擔當して居られる。

(7)並に(8)は何れも事務室で、バツシン教授 Otto Baschin が女事務員一名を指揮して整理に従事して居る。教授は伯林の人、一八六五年(明治二十年)生伯林大學に於て地理を學び、一八九一年には現ミュンヘン大學教授のツライガルスキー氏と共に、グリーンランドを踏査し、一八九一年より二年に亘りて、ラブランドに遊び、極光を研究された、著書としては Belgien (1915) を初め、Bibliotheca Geographica などがある、一九〇〇年から當インスチチュートに於て、地學演習を擔當せられて居る、教授は主に氣象學方面の研究家で、現今も演習として、此の方面を講述して居られる、頭のかてかたの、極く快活な懇切な方で當研究室では殆ど休日の差別なく終日事務に執掌して居られ、他の教授は居なくても、バツシン教授の居られない事はないと云ふ程で、自分も大に御世話になつた。

(9)も事務室で兼て、幻燈用フィルム貯藏室になつて居る、一方の壁はフィルム箱をなし

小さく區劃し分類して、フィルムを蒐集して居る、當教室では講義の際幻燈を利用する事多く殊にペンク教授は此の利用が實に巧である、從てフィルムの蒐集も却々骨を折つて居る、從來縦覽した地理研究室中之れだけの蒐集をもつて居る處は他に類を見ない。ブランド博士 Brandt が此の室に居た、博士は丈の低い頭の大きな眼のぐりぐりした一見怪異な風采ではあるが、接して見ると却々に懇切である。ペンク教授の演習を擔當せられ、重に地質岩石の方を説明して居られ、云はゞペンク教授の助手の様子であつた。南米の研究家で、永く彼地に滞在して居られた様であり、之に關する大著もある。當大學でも博士は地中海地方や、南米の地理を講じて居た、研究室の學生のみならず、吾々外國人に取つても懇切に指導し下したが一昨年春、ブラグ大學に榮轉された。

今は極く少壯なルイス博士 Herbert Louis が之に代つて事務をとり、地圖學並に實地指導に従事して居る、氏は伯林の人、當大學に學び、地

形の研究家で、常に學生を引卒、附近にエキスカーションを行はれるが、實に熱心なる指導振には少なからず感服、氏のエキスカーションには出来るだけ出席した。アルプスのエキスカーションの時の如きも、多大の御世話に預つた。バルカン方面の研究に従事、休み毎に出かけられたが、最近書物となつてあらはれた。

Herbert Louis, Albanien. (Eine Landeskunde vornehmlich auf Grund eigener Reisen) 1927.

が是である。(此書に付ては地理學評論第四卷第七號に於て辻村太郎氏が紹介下して居る)。

(10)は Ernst Kohlschütter 教授の室、教授はボツツダムの天文臺の主任で當大學教授を兼ねて居る方で、數理地理並に天文方面を講じて居る。

(11)と(12)とは圖書室で、幅三間長さ拾數間の廊下を利用したもので、東西に別れて居る、東の圖書室、西の圖書室と呼で居る、中庭に面して窓を備へ、閱覽用机を置き、後の壁に接して一帯書棚を備へて居り、段を設けて上下二段に別けられて居る。圖書は西の圖書室の北端よ

り分類して順次に並べられ、地理の總論より、政治地理・經濟地理と各部に別ち、之につゞいて雜誌部にうつり、階上には獨逸地方誌に關する書籍を蒐集して居る。東の圖書館は、世界各國の地理書を國別にして並べ、北の端の最初にはカールリッターの著 *Vergleichen de Erdkunde* 約廿卷より初め、各國別に並べられて居る。日本の部なども、此内に在る、此の圖書室は從來縦覽した地學研究室の圖書室に比べますと、最完備したもので、其の圖書の如き、各部に付て其沿革的に蒐集年代順に並べられて居る、例へば地形學の部で申しますならば、地形學發達の沿革的に先づ最初にゲーテのモルフオロギーより次は何と云ふ風に最近の著に至る迄順次に並んで居る、之れは他の研究室には見る事の出来ない點でかうなつて居れば單に地形夫自身の研究のみならず、之を歴史的にも研究する事が出来る非常に便利であります、流石は大學の研究室と

感服しました。此の圖書は大部分は當研究室の前の主任であつたリヒトホーヘン教授の遺書が基礎をなして居るもので、各冊毎に同教授自筆の署名が見られ、之を利用する者をして自ら襟をたゞさしむ、此圖書室で面白く思つたのは、東圖書館の或る書中に於て偶然にも我が故青木周藏氏の名刺を發見した事であつた、如何なる理由で此書中に残つたものか、或はリヒトホーヘンと知合であつたものであらうか。

(13)(14)(15)は地圖に關せる室で、(13)は地圖保存室である、數個の地圖箱を準備し、世界各國の地圖を蒐集して居る、故 Noppin 教授の蒐集品を基礎としたものだ。伯林大學の記念帖に記載してあつた、(14)は製圖室で、數臺の製圖臺を備へ、學生の製圖に適せしめて居る、(15)は一種の實驗室で、地理學よりも寧海洋學の方で使用する方が多い様に見受けた。

(以下次號)